

令和7年度 日向市立平岩小中学校 学校評価報告

評価項目1【学ぶ力】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと 評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価 委員の意見
①実態に応じた授業の工夫 改善	○家庭学習の手引きを全家庭に配付し、 学習内容や時間について周知を行ったり、 学級懇談で伝えたりした。 ●自学の内容の差があるので、見本を掲 示し、取り組む内容を教える必要性もある。	3.2 児童生徒 3.4 保護者 2.9 職員 3.0	・家庭学習の手引きの利用の仕方を再検討する。 ・自学リレーなど友達がどのような勉強をしているのか把握し、自分の勉強法の参考にするような取り組みを検討する。 委員会活動の活性化	○ 家庭学習については、学校からポイントを押さえて保護者に働きかけを行い、保護者も子どもの取組を見届ける必要がある。 ○ 図鑑など図書の利用の面白さを伝えた上で、ネットで調べることと本で調べることのバランスをうまくとる必要がある。 ○ 今後、AIと共存していくので、それを活用するために必要な能力を身に付けさせてほしい。 ○ 様々なあふれる情報を取捨選択できる能力を身に付けてほしい。手に入れた情報を鵜呑みにするのではなく、正しく判断できるようにしてほしい。 ○ ICTを活用することのメリットとデメリットについて、児童生徒同士の協議をする機会を設けるのもいいのではないかと。
②ICTの活用を中心にして、自分に必要な学びを意識し、学習するための支援	○調べ学習で活用したり、学びを共有したりするためのツールとして活用している。 ○テスト機能を使うことで、前時の振り返りなどゲーム感覚でできるようになった。	3.0 児童生徒 3.2 保護者 2.8 職員 2.5	・ネット上の情報収集に頼りすぎている場合があるので、図書や教科書などの情報からも利用できるようにリテラシーを育てていく必要がある。	

評価項目2【読書】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと 評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価 委員の意見
①読書に親しむ時間の確保	○授業中に図書室へ行って、読む時間を与えたり、昼活動で読書活動を推進したりしている。 ○図書司書が企画してくださるイベントなどのおかげで来室者は多くなっている。 ●学校では本を読んでいるが、家では持ち帰っていないと考えられる。	2.5 児童生徒 2.5 保護者 2.6 職員 2.5	・今後も呼びかけていく。 ・読書通帳を家庭でも共有する方法を考える必要がある。 ・中学部の読書率が少ないので、昼活動の時間を使い、貸出に行かせたり、電子図書の利用をしたりするのを促していく。	○ 図書館ボランティアや担任など学校の先生による読み聞かせを行うことで、本に興味をもつ子どもが増えていくのではないかと ○ 本以外にも様々なものがあふれているので、「ノーマディアデー」をもっと活用して、家庭を巻き込んだ取り組みを行う必要がある。 ○ 学校司書の方をもっと活用して、子どもが本を手にとってワクワクするような気持ちを育ててもらいたい。
②「ビブリオバトル」等児童 生徒主体の活動の継続	○事前に準備をすることで、自信をもって発表することができた。 ●保護者への通達が何かの形でできればと思う。	2.5 児童生徒 2.6 保護者 2.4 職員 2.5	・希望者だけの活動ではなく、学級単位でのビブリオバトルの実施を企画することで、読書率向上を促していき、代表を決めて、より内容深いものにしていく。	○ ビブリオバトルはいい取組であるので、このような機会を利用して、児童生徒に心に残る本に出合える取り組みをしてもらいたい。 ○ 本のジャンルは問わず、好きなジャンルから本に親しむ機会を設けてほしい。言語力の向上、思考力や集中力の向上等につながると思う。

評価項目3【一人一人のもつよさの発揮】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと 評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価 委員の意見
①自己決定の場・自己存在感・共感的人間関係が生かされる学校行事の充実	○児童生徒会や実行委員会を活用しながら主要な学校行事（運動会・渚フェスティバル等）を運営することができた。 ●子どもが企画を立案したり、計画を立てたり、運営したりするなど、子ども主体の割合を増やせると良い。	3.4 児童生徒 3.5 保護者 3.3 職員 3.5	・学校行事の時期を検討し、担当職員や児童生徒が余裕をもって行事運営にあたるようにする。 ・学校行事の中に子どもが主体となって取り掛かれる部分を設ける。 ・学級活動を中心に、日頃の指導の中で子ども達の企画力や合意形成能力を高める。	○ 学校行事に取り組む中で、自分を見つめ直すいい機会になる。また、自分や仲間のよさに気づき、認め合うことで、自己存在感につながるのではないかと。 ○ 大きな行事だけではなく、小さな行事を児童生徒が企画運営していく経験を積ませていくことが大切ではないかと。 ○ 社会に出たら、人間関係を構築することから始まる。そのため、自分も含めた一人一人を大切にすることが求められる。学校行事等は、そうした力を育むうえでとても大切な機会だと思う。 ○ 支援が必要な子どもへの様々なサポートがなされていると感じる。その中で、児童生徒一人一人に優しい心が育ってきていると思う。
②特別支援教育の組織的な取組と発信	○校内特別支援研修により、個々のニーズに応じた具体的な指導スキルが向上した。 ○学級支援体制の確立でコディネータへの相談が増え、組織的対応が可能となった。 ○9年間の一貫した支援体制を構築し、小中間の円滑な接続を実現した。	3.1 児童生徒 3.1 保護者 3.0 職員 3.1	・支援学級への理解教育を年度当初から計画的に実施すべきだ。 ・小学校では特別支援教育の視点を取り入れた学級経営を行う。 ・中学では自己理解に基づく特別支援教育の視点に基づいた進路指導が必要だ。	

評価項目4【キャリア教育】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと 評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価 委員の意見
①9年間を見とおした計画と学びのアウトプット	○各授業でのタブレットなどを用いたアウトプットでの学びの共有を行った。 ○各学年、発達段階に応じた意見交換などができるようになった。	3.0 児童生徒 3.3 保護者 2.6 職員 3.0	・9年間を見通した部分で課題が残る。卒業時にどのような姿で学びのアウトプットができる生徒を育成するのかを職員と共有し、手だてを考える必要がある。	○ 授業等を通して、児童生徒がインプットしたことを「だれ」に向かってアウトプットするのかを大切にすることも必要だと思う。 ○ キャリアパスポートを通して、自分が将来どのようになりたいのかイメージをもたせ、それをビジョンにしていくことも大切ではないだろうか。 ○ 様々な人と出会い、色々な体験を重ねることで視野を広くもたせ社会を生きる力へとつなげてほしい。家庭での手伝いも大きな力となる。 ○ 学習や経験したことを土台として発表する経験を積み重ねていくことで、できる自分を見つけることにつながり、それが自信になるのではないかと。
②事前学習を経て、多様な人材との関わり	○中学部ではキャリア教育支援センターの支援を受けての社会体験学習やよのなか教室を行った。小学部は、体験活動などで外部講師とかかわった。その結果、多様な価値観を学ぶことができた。	3.3 児童生徒 3.4 保護者 3.0 職員 3.3	・来年度は、7年生も社会体験学習を実施し、事前学習と事後学習を充実させることで働く目的や学ぶ目的を学ぶ機会を設ける。また、小学部は、特に6年生で市キャリア教育支援センターと連携し、キャリア教育の充実を図る。	

評価項目 5 【健康の保持・増進】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと 評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価 委員の意見
①基本的な生活習慣の育成	○生活習慣アンケートの実施 ○委員会活動による取組(ラジオ体操・ 動画による筋力トレーニング) ○食育を通じた外部講師の活用 ○長期休暇の「せいかつリズムチェック 表」による意識付け	3.2 児童生徒 3.2 保護者 3.2 職員 3.0	・分析結果を児童生徒・保護者に還元し、改 善に活かしてもらおう。 →学年ごとにアンケート内容の変更その結果 を放送で呼びかける。	○生活習慣は、家庭の保護者の意識によって変わる ので、子どもが学ぶことやチェック表を通して保護 者も学ぶ機会につながるのではないかと思う。 ○基本的な生活習慣は、体力や気力のもとになり、生 きる力の源になる。朝食はきちんと食べさせてほし い。 ○ゲームやスマホ等の普及により、体を動かさず長 く座って遊ぶ機会が多いのではないか。自力通学で 歩く機会を増やしたり、学校でも体を動かす機会を 増やしたりする必要がある。 ○ただ子どもに体を動かすことを求めるのではな く、それをすることがどのような意味があるのか、 そうした視点も併せて伝える必要もあるのではない か。
②スクールスポーツプラン の計画的な実施	○体育準備の際、常時外周2周を走る ○縄跳び、持久走、鉄棒のチェックシ ートの活用	3.2 児童生徒 3.3 保護者 3.2 職員 2.8	・達成出来た場合、表彰を行い、意欲づける。	

評価項目 6 【防災・安全教育】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと 評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価 委員の意見
①知識に基づき、災害時に 自ら行動できる訓練の継続 と検証 ②保護者に周知して行う防 災訓練の実施	○風水害、地震の避難訓練やシェイクア ウトでは、児童生徒が自ら身を守る行動 がとれていた。 ○保護者に周知し訓練を行うことで、地 域と連携した訓練が出来た。	3.2 児童生徒 3.3 保護者 3.2 職員 3.3	・引き続き避難訓練の実施 ・地震の避難訓練では、児童生徒が校舎に取 り残されたことを想定した訓練の実施	○保護者や地域と一緒にやっていく避難訓練 をこれからも行っていくことで、自ら命を守る意識 を高めることにつながると思う。 ○様々な場面をシミュレーションして避難するだけ でなく、実際に起こったことで話し合いをするなど して、意識を高めていく必要がある。 ○地域によっては、津波を想定した避難が求められ る。登下校の際、家に一人で居るときなど様々な場 面を想定し、学校と地域と一体となって行うことも 必要である。 ○地域の消防団を、避難訓練の時間に呼んでもらえ れば、地域を自分たちで守る意識にもつながってい くのではないかと思う。

評価項目 7 【お互いに尊重し合う人間関係】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと 評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価 委員の意見
①組織的に取り組む実態把握	○毎週水曜日、児童生徒についての情報共有を全職員で行っている。 ○毎月のアンケートをきっかけに気になる児童生徒については学級担任が教育相談を行うようにしている。 ○多様なニーズを抱えた児童生徒がいる中で、特別支援教育C○のアドバイスをいただきながら特別支援の視点から実態把握をするようにしている。	3.4 児童生徒 3.5 保護者 3.3 職員 3.2	・今年度、ICTツールを活用して手軽に情報共有できる形を整えることができたので、継続して取り組む。	○ 情報を共有していこうとする職員の意識の高さがある。安心して子どもを預けることができる。学級担任だけでなく全職員で関わることをこれからも続けていって欲しい。 ○ 児童生徒と先生方との信頼関係ができていからこその高い評価だと思う。これからもなんでも相談できる雰囲気づくりに心がけていって欲しい。 ○ 人権教育は「相手のことを考える」ということを柱に話し合い等を進めていって欲しい。思いやりをもって接すれば、言葉も気を付けて話すことができるようになるのではないかなと思う。 ○ 心無い発言をした児童生徒に対して、なぜそのようなになったのかを個別に丁寧に聞き取りを行ってから、指導にあたってほしい。
②相手意識の醸成と信頼関係づくり ③計画的・継続的な人権教育の実施	○相手意識やおもいやりをキーワードに各学部で児童生徒に話をしている。 ○日頃の指導の中で、児童生徒の発言にアンテナを立てながら、心無い発言等があれば適宜全体指導を行っている。 ●荒い言動が目立つ児童生徒もいる。	3.5 児童生徒 3.6 保護者 3.5 職員 3.0	・言葉遣い等については、まだまだ改善の余地がある。道徳を中心とした人権教育の充実に努めたい。	

評価項目 8 【貢献】 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

重点実践事項	具体的な手立てと 評価指標に対する達成状況	評価	改善策	学校関係者評価 委員の意見
①学校内外でのあいさつの励行	○児童生徒会が中心になって、あいさつ運動を行った。 ●全体に浸透していないため、今後の課題として改善していきたい。 ●「自分からあいさつ」にまだ課題が残る。	3.3 児童生徒 3.5 保護者 3.0 職員 2.9	・あいさつ集会等で啓発していく。 ・生活委員会が中心となって、あいさつ運動に取り組む。	○ あいさつは信頼関係を築くためのコミュニケーションのきっかけになるので、これからも推進して欲しい。 ○ あいさつは、まず大人からすることも大切であると感じる。そうした姿を子どもに見せていくことで、自然と子どももできるようになるのではないかなと思う。
②「平岩レンジャー」の継承と「ちょこっとボランティア」精神の育成	○地域の各イベントに積極的に参加できた。 ○小学生は昼休みに廊下清掃等に積極的に取り組むことができた。 ●継承という点で、7・8年生の参加率が低いことが課題。	3.2 児童生徒 3.4 保護者 3.0 職員 3.0	・平岩レンジャー集会を実施し、経験した児童生徒からどんなことに役立ったか、なぜ参加した方が良いかなどを話してもらう場を設ける。	○ 平岩レンジャーの活動は地域の方々が評価している。これをうまく継承して欲しい。また、ちょこっとボランティアの精神も育まれつつある。高齢者を元気づけているようである。 ○ 地域のイベントに、計画から子どもを参加させたい。子どもの思いを基に組み立てていくことで、地域を元気にしていくことにつながると感じる。

小中一貫教育に関する自己評価

①	グランドデザインは、職員の共通理解が図られている。	◎ 4
②	グランドデザインは、家庭や地域の理解が図られている。	○ 3
③	めざす児童生徒の姿の実現のために、中学校区内の学校で共通実践が進められている。	◎ 4